

2026 年度大学入学共通テスト 解説 〈歴史総合、世界史探究〉

第 1 問

解説

A

問 1

正解は④。図 1・2 及びノート 1 から読み取れる内容に関する正文選択問題。

正文は④。19 世紀後半のフランスでは工業化が進展していた。また、ノート 1 によると、図 1 のような、階によって社会階層が住み分ける集合住宅から、図 2 で示されるような、地域による社会階層の住み分けが見られるようになった。

①は誤文。高度情報化社会が到来するのは 20 世紀後半のことであり、住み分けの移行が逆である。

②は誤文。高度情報化社会が到来するのは 20 世紀後半のことである。

③は誤文。住み分けの移行が逆である。

問 2

正解は「あ」一正、「い」一誤の組合せ。フランスの対外関係上の出来事に関する正誤の組合せを選ぶ問題。

「あ」は正文。1863 年に長州藩は攘夷命令を幕府に強要し、列強の船に砲撃した。これを受けて、翌 1864 年フランスを含めた 4 カ国は長州藩に報復攻撃を行った。

「い」は誤文。フランスがイギリスやロシアと、オスマン帝国領の分割を取り決めたサイクス・ピコ協定を結んだのは 1916 年のことである。

問 3

正解は④。江戸・東京の都市構造の変化に関する誤文選択問題。

誤文は④。文化住宅は大正から昭和初期にかけて流行した、洋風の応接間を特徴とする和洋折衷の住宅様式である。

①は正文。物資は南海路や東廻り航路（海運）などの海運によって各地から江戸に運ばれた。

②は正文。明治初期の 1872 年には銀座に煉瓦街が建てられ、文明開化の象徴となった。

③は正文。明治政府は条約改正を狙った欧化政策の一環として鹿鳴館を建てた。

問 4

正解は「い」ーX の組合せ。グラフ 1 から読み取れる事柄とその背景として正しい組合せを選ぶ問題。

グラフ 1 からは 1990 年代に公定歩合は低下し、新規住宅着工戸数は伸びずに横ばいとなっていることがわかる。これには 1991 年のバブル経済崩壊後に地価や株価の急落による平成不況が起きたことが背景にあると推測できる。

B

問 5

正解は③。東南アジアの植民地化に関する正文選択問題。

正文は③。ビルマ（ミャンマー）は、3 度にわたるビルマ戦争の末、イギリス領インド帝国に編入された。

①は誤文。インドネシアでは特定の商品作物の強制裁培制度が行われ、これらはオランダに輸出された。

②は誤文。マラッカを拠点にしたのはポルトガル・オランダ・イギリスである。

④は誤文。緩衝地帯として独立を守ったのはタイである。

問 6

正解は「あ」・「う」。パネル 2 の内容に関する正文選択問題。

正文は「あ」。清溪川の南側には、「長谷川町」「明治町」などの日本語の地名や「三越百貨店」など日本の百貨店がみられる。

「う」も正文。パネル 2 が示しているのは 1930 年代半ばであるため、1919 年に発生した三・一独立運動（三・一事件）よりも後の時代である。

「い」は誤文。移転後の朝鮮総督府は朝鮮人住民の割合が大きい地域に置かれた。

「え」は誤文。日本の政府開発援助（ODA）が拡大したのは 1985 年以降のことである。

問 7

正解は「アー朝鮮戦争、イー周辺からの労働力の流入」の組合せ。ノート 2 の空欄

ア

 ・

イ

 に当てはまる語句の正しい組合せを選ぶ問題。

中国の人民義勇軍が介入したのは選択肢のうち朝鮮戦争である。また、ノート 2 から戦後香港の経済発展の背景として、1950 年代に内戦を逃れて労働力が香港に流入したことを読み取ることができる。

問 8

正解は「メモ 2 のみ正しい」。メモ 1・2 に関する正誤判定問題。

メモ 1 は誤り。香港へ流入した人々はノート 2 より中国人だと考えられる。したがって、現地の人が占める割合が 1931 年よりも低下しているとは考えられない。

メモ 2 は正しい。B の会話文より、華僑・華人の割合は宗主国の人よりも多いことが読み取れる。実際に、グラフ 3 を見ると、華僑・華人の占める割合は約 4 割である。

第 2 問

解説

A

問 1

正解は「い」－Y の組合せ。空欄「ア」に入る語句と、資料 2 の「答」から読み取られる白居易の考えの正しい組合せを選ぶ問題。

空欄「ア」に入るのは「い」の律。唐では律・令・格・式からなる法体系が整備され、このうち資料 1 にあるような刑罰に関する規則を定めたのは律である。なお、令は行政法・民法に相当する。

白居易の考えとして適切なのは Y。資料 2 の「答」では、公務のためという釈明を「その時間を考えることにうかつであった」として正当なものと認めず、「夜間通行禁止の規則に従うべき」と述べている。文章中の中田も「白居易は、正当な理由とは認めなかった」と発言している。

問 2

正解は③。唐代の官僚の特徴に関する正文選択問題。

正文は③。唐代には官僚の選抜に科挙が用いられ、儒学の教養を要求した。唐後期に官僚として登用された韓愈（韓退之）や柳宗元は、漢代以前の古文の復興を唱えた。

①は誤文。文治主義は北宋の時代に採用された理念である。

②は誤文。封建制を支配原理として、世襲の諸侯が政治を行ったのは周の時代である。

④は誤文。色目人が財務官僚として活躍したのは、元の時代である。

B

問 3

正解は「あ」－X の組合せ。空欄「イ」に入る文と、下線部㊸の状況の根拠となるものが表現されている図について正しい組合せを選ぶ問題。

空欄「イ」に入る文は「あ」。11 世紀以降のヨーロッパでは開放耕地制が取られ、耕作地における個人の垣根や堀が取り払われていた。また、牧草地や森林の利用も共同で行われた。

正しい図は X。図 X の下部には、当時の新農具である重量有輪犁によって畑が耕される様子が描かれている。方向転換の難しい重量有輪犁の使用には、広い耕地が必要とされた。

問 4

正解は③。中世ヨーロッパの農奴に関する正文選択問題。

正文は③。不自由身分だった農奴には、本来移住の自由がなかった。しかし、資料 4 には「貢納の義務を果たす限りにおいて～移り住むことができる」とあり、ボヴェジ地方の農奴は移住が可能であったとわかる。

①は誤文。荘園の中で不自由な身分におかれた農奴には、移住の自由がなかった。

②は誤文。荘園の中で不自由な身分におかれた農奴には、移住の自由がなく、また、資料 4 には「移り住むことができる」とあり、ボヴェジ地方の農奴に移住の自由がなかったとするのは誤り。

④は誤文。資料 4 には、「移り住むことができる」とあり、ボヴェジ地方の農奴に移住の自由がなかったとするのは誤り。

C

問 5

正解は「ウ」ーイタリア, 「エ」ーイギリスの組合せ。空欄 ウと空欄 エに入る国名の正しい組合せを選ぶ問題。

空欄 ウに入る国名はイタリア。アフリカ分割が進行する中で、イタリアは地図中の b に対応するエリトリア、及びソマリランドの一部を獲得した。

空欄 エに入る国名はイギリス。アフリカ分割が進行する中で、イギリスは地図中の c に対応するスーダン、及びソマリランドの一部を獲得した。

問 6

正解は「二つとも正しい」。メモの内容に関する正誤判定問題。

メモ 1 は正しい。資料 5 で扱われている金銭の支払いをめぐる係争において、裁判官は原告側の証人による証言が承認されたことを理由に、原告側の訴えを認める判決を下している。

メモ 2 は正しい。資料 5 でイスラーム教の絶対神アッラーに対して証言が行われたこと、また、パネルで言及されている通り、資料 6 でイスラーム教の聖典『クルアーン（コーラン）』の一節が引用されていることから、この法廷ではシャリーア（イスラーム法）に則した判決がなされたとわかる。

問 7

正解は「オ」ーコンスタンティヌス, 「カ」ー2 班の組合せ。空欄 オに入る人名と空欄 カに入る班について正しい組合せを選ぶ問題。

空欄 オに入る人名はコンスタンティヌス。ローマのコンスタンティヌス帝は、税収入を安定させるためにコロヌスを土地に縛りつけようとした。

空欄 カに入る班は 2 班。2 班は中世ヨーロッパの荘園における農奴に関する慣習法について調べており、古代ローマの小作人であるコロヌスに関する江上さんの探究と比較することができる。

第 3 問

解説

A

問 1

正解は「Ⅱ－図 1－Ⅰ」。フランス革命に関連する出来事についての年代整序問題。

文Ⅰは 1793 年から 1794 年にかけて起こった出来事である。革命中の 1793 年 7 月に実権を握ったロバスピエールは公安委員会を中心に恐怖政治を行ったが、1794 年 7 月のクーデタで失脚した。

文Ⅱは 1775 年から 1783 年にかけて起こった出来事である。1775 年から始まるアメリカ独立戦争に兵を派遣したフランスは財政難に陥り、これがフランス革命勃発の 1 つの原因となった。

図 1 は 1789 年に起こった出来事である。パリの市民は 1789 年 7 月にバスティーユ牢獄を襲撃し、これがフランス革命の発端となった。

以上より、正しい順番に並べると、Ⅱ－図 1－Ⅰとなる。

問 2

正解は「あ」－X の組合せ。下線部㊸に関して述べた文と、空欄「ア」に入る文について正しい組合せを選ぶ問題。

下線部㊸に関して述べた文として正しいのは「あ」。パンを求めたパリの民衆がヴェルサイユ宮殿に乱入したヴェルサイユ行進の中心となったのは、女性であった。なお、「い」について、オランプ＝ド＝グージュは「人権宣言」の起草には関わらず、そこに女性の権利が書かれていないことを批判した。

空欄「ア」に入る文として正しいのは X。ナポレオン法典はフランス革命で生まれた近代市民社会の原則を継承する一方、家父長権を重視することで女性を従属的な地位に置くものであった。

B

問 3

正解は②。過去や同時代の出来事を伝える手段としての文字や文章に関する誤文選択問題。

誤文は②。『集史』は、モンゴル語ではなくペルシア語で書かれた。

①は正文。『史記』は支配者の年代記である本紀と、支配者以外の人物の年代記である列伝を中心に書かれている。この叙述形式を紀伝体と呼ぶ。

③は正文。ラス＝カサスは『インディアスの破壊についての簡潔な報告』を著し、インディオがエンコミエンダ制のもとで過酷な状態に置かれていることをスペイン国王に伝えた。

④は正文。ドイツのランケは厳密な史料批判に基づく史実を探究し、近代歴史学の基礎を確立させた。

問 4

正解は②。同時代の出来事を扱った絵画や風刺画に関する正文選択問題。

正文は②。会話文中に登場する「棍棒外交を展開したアメリカ合衆国大統領」とは、セオドア＝ローズヴェルトを指す。セオドア＝ローズヴェルトはカリブ海に対する帝国主義政策を進めた一方、日露戦争では日本とロシアの仲介をしてポーツマス条約を結ばせた。

①は誤文。先生は会話文で、「どのような手段に関しても、作者など、発信者側の意図や立場にも留意する態度が求められる」という見解を提示している。

③は誤文。図 3 はピカソの「ゲルニカ」であり、コソヴォ紛争ではなくスペイン内戦に伴う都市ゲルニカへの空爆を題材に描かれた。

④は誤文。図 4 で描かれているのはローズであり、彼はフランスではなくイギリスの人物である。当時のイギリスは、風刺画にあるローズの両足先の地域（エジプト・南アフリカ）を結ぶアフリカ縦断政策を進めていた。

C

問 5

正解は「い」－X の組合せ。グラフから読み取れる事柄と、その背景として考えられることについて正しい組合せを選ぶ問題。

グラフから読み取れる事柄として正しいのは「い」。1931 年の人口は 600 万人を超えていたが、1933 年の人口は 500 万人を下回っており、この期間で総人口は 100 万人以上減少している。なお、1926 年と 1939 年の都市人口の変化は 3 倍強であり、「あ」は誤り。

背景として正しいのは X。パネルには、1930 年代前半に大規模な農業集団化が実施されたとある。これは農村の混乱を招いて餓死者を大量に発生させたため、人口が減少した。

問 6

正解は「二つとも正しい」。パネルの内容についてのメモに関する正誤判定問題。

メモ 1 は正しい。パネルでは、1957 年のアルマティにレーニンの像が設置されたと説明されているが、レーニンは十月革命の指導者であった。また、パネルでは同じく、1940 年代末以降のカザフスタンで、数百回の核実験によって住民の健康被害が多発したことも説明されている。

メモ 2 は正しい。パネルには、アルマティの女性兵士像のモデルとなった 2 人の女性兵士が、レニングラードを防衛する戦いで 1943 年と 1944 年に戦死したとある。この戦いは、1941 年に始まった独ソ戦の一部である。

第 4 問

解説

A

問 1

正解は「い」－Y の組合せ。空欄 に入る文と、資料 2 から読み取れる内容について正しい組合せを選ぶ問題。

空欄 に入る文として正しいのは「い」。ローマ人の「帝国」という意味で「インペリウム」という語を用いているカエサルは、共和政の時代の人物である。したがって、共和政の時代からローマは「ローマ帝国」と呼べる存在であったとわかる。

資料 2 から読み取れる内容として正しいのは Y。資料 2 から、アウグストゥス帝は「王位を元の王に返却」して復活させた王国についても、「インペリウム」、すなわち帝国の一部とみなしていたことがわかる。

問 2

正解は「Ⅰ－資料 2－Ⅱ」。ローマの「インペリウム」が直接及んだ領域に関する年代整序問題。資料 2 が書かれた時代は、先生の発言より、五賢帝時代（2 世紀）である。

図Ⅰでは、アフリカの一部やイベリア半島が塗られている一方、ライン川の地域には「インペリウム」が及んでいない。このことから、カエサル以前、概ねポエニ戦争終結時（前 2 世紀）のローマの支配領域だとわかる。

図Ⅱでは、小アジアやギリシア、アフリカ北岸が塗られている一方、西ヨーロッパの大部分には「インペリウム」が及んでいない。このことから、ユスティニアヌス 1 世時代（6 世紀）の東ローマ帝国（ビザンツ帝国）の領域であるとわかる。先生の発言にある通り、ローマは東西分裂後も「帝国」と認識されていた。

B

問 3

正解は④。下線部⑥，すなわちアウラングゼーブの治世で起きた変化に関する正文選択問題。

正文は④。アウラングゼーブの時代にムガル帝国は最大版図を達成したが、人頭税の復活やヒンドゥー教寺院の破壊などの政策によって地方勢力の反発が強くなっていた。

①は誤文。タージ＝マハルの建造を命じたインド＝イスラーム文化最盛期の皇帝は、シャー＝ジャハーンである。

②は誤文。シク教がナーナクによって創始されたのが 16 世紀初頭である一方、アウラングゼーブが皇帝となったのは 17 世紀後半である。

③は誤文。ロディー朝を倒したのは、ムガル帝国初代皇帝のバーブルである。

問 4

正解は「あ」－正、「い」－正の組合せ。ムガル帝国期の宗教や文化に関する正誤判定問題。

「あ」は正文。資料 3 より、シュリーナートジー神がヒンドゥー教の神であることと、挿絵にあるその衣装がイラン＝イスラーム文化の影響を受けていることがわかる。

「い」は正文。田口の発言から「ダーラー＝シコーが、スーフィズムとウパニシャッド哲学とが共通していると考え」ていたことがわかる。このうち、スーフィズムはイスラーム教の神「アッラーとの一体感を求める思想」に対応し、ウパニシャッド哲学が「ブラフマンとアートマンとの同一性を悟ろうとする古代インド思想」に対応する。

C

問 5

正解は「い」－X の組合せ。空欄 に入る語句と、アメリカ＝スペイン戦争の結果、アメリカ合衆国が領有した場所について正しい組合せを選ぶ問題。

空欄 に入る語句として正しいのは「い」。資料 4 では「北のアメリカ」が野望へ向かって一気に走り出す」とあり、「北のアメリカ」がラテンアメリカへの進出を図るアメリカ合衆国を指すことがわかる。したがって、「我らのアメリカ」はそれに対抗するラテンアメリカの諸国を指していると推測できる。

アメリカ合衆国が領有した場所として正しいのは X のフィリピン。アメリカ＝スペイン戦争を経て、フィリピンはアメリカに領有された。なお、Y のアラスカは 19 世紀半ばにアメリカ合衆国がロシアから買収した土地である。

問 6

正解は「メモ 2 のみ正しい」。「帝国」のあり方についてのメモに関する正誤判定問題。

メモ 1 は誤り。国民国家建設という概念が現れたのは 18 世紀のヨーロッパであり、この概念を古代ローマ帝国の支配終焉期に適用することはできない。

メモ 2 は正しい。フェリペ 2 世のカトリック強制策に対して、ネーデルラントのプロテスタントはオランダ独立戦争を起こした。他方、ムガル帝国では、イスラーム教を信仰するアウラングゼーブが宗教寛容政策を撤回してジズヤの復活やヒンドゥー寺院の破壊を実施し、各地での抵抗を招いた。

メモ 3 は誤り。アクバルが実施したマンサブダール制は、官僚の組織化によって中央集権化を図るものであり、地方分権を進めるものではなかった。

第 5 問

解説

問 1

正解は②。パネルから読み取れることやその背景に関する正文選択問題。

正文は②。明清時代の地域有力者は郷紳と呼ばれた。パネルには、この「地域有力者は、上記の立場を利用し、納税代行に従事して、富を蓄積するようになった」とあるため正しい。

①は誤文。交子や会子は、明清時代ではなく宋代に発行された紙幣である。

③は誤文。明代に創始されて銀での納税を求めた税制は、両税法ではなく一条鞭法である。両税法は唐代の半ばから実施された制度で、銭や布による納税が行われた。

④は誤文。パネルには農民が「生産物を商人に売却して銀を手に入れた後、銀の純度の調整を職人に依頼し～高額な経費が必要だった」とあり、政府ではなく農民自身が経費を負担したとわかる。

問 2

正解は「アー農地の徴税権を分与する制度、イー短期間に利益を最大化しようとした結果、激しい収奪が行われた」の組合せ。空欄 ア に入る語句と、空欄 イ に入る文について正しい組合せを選ぶ問題。

空欄 ア に入る語句として正しいのは「農地の徴税権を分与する制度」。オスマン帝国では騎士に土地とその地の徴税権を分与するティマール制が採用され、徴税請負制の導入まで実施された。

空欄 イ に入る文として正しいのは「短期間に利益を最大化しようとした結果、激しい収奪が行われた」。資料 1 からは、徴税請負人が自らの請負期間が限られていることを理由として「収穫物の全てを奪おう」としたことが読み取れる。

問 3

正解は「い」ーY の組合せ。リストの主張と、それと同様の考えや背景があると推測される事例について正しい組合せを選ぶ問題。

リストの主張として正しいのは「い」。リストは保護貿易を主張した経済学者であり、資料 2 の「2.」において「ドイツ以外の諸国民」に対して「共通の関税を設定すること」を主張している。

事例として正しいのは Y。イギリスの工業製品から自国製品を守るべく、南北戦争直前のアメリカ合衆国北部諸州はリストと同様に保護関税政策を主張した。

問 4

正解は「ウ・ブロック経済の成立によって、世界経済が分断されたこと、エーアメリカ合衆国」の組合せ。空欄 ・ に入る語句の正しい組合せを選ぶ問題。ここで問題となっている協定とは、「関税と貿易に関する一般協定（ガット（GATT）」である。

空欄 に入るのは「ブロック経済の成立によって、世界経済が分断されたこと」。戦前の世界恐慌時のブロック経済によって世界経済は分断され、GATT はこのことへの反省から締結された。第二次世界大戦直後に締結された協定の背景であるため、戦前の経済動向を選べばよい。

空欄 に入るのはアメリカ合衆国。GATT を含む国際経済体制であるブレトン＝ウッズ体制の成立は、アメリカ合衆国の主導で行われた。

問 5

正解は③。モンゴル帝国時代の中国の税制に対する探究活動の方針と、そのために参照する資料・パネル・事例について述べた文に関する正文選択問題。

正文は③。1 班は明清時代の中国の税制度の仕組みに関する事例、2 班はオスマン帝国の徴税の仕組みに関する事例を取り上げている。また、資料 5 には買い手の商税を役所で払う仲介人が登場している。これらはいずれも納税や徴税に関わるもので、その仕組みについて探究する材料となる。

①は誤文。資料 4 は減税措置について述べている一方、1 班のパネルは納税と徴税の仕組みについて、資料 1 は徴税の仕組みについて述べるに過ぎない。したがって、これらから「税率の変更が流通にもたらした影響」を探究することはできない。

②は誤文。資料 4 は減税措置について述べている一方、資料 2 は関税の是非について、資料 3 は貿易に関する国際的な取り決めについて述べるに過ぎない。したがって、これらから「税率の変更が流通にもたらした影響」を探究することはできない。

④は誤文。3 班が取り上げたリストの嘆願書と 4 班が取り上げた「関税と貿易に関する一般協定」は、どちらも国際貿易に関わる事例である。また、資料 5 は仲介人を介した徴税の仕組みを示すものである。したがって、これらから「税制と地域の有力者との関係」を探究することはできない。